

平成 17 年度 日本応用地質学会東北支部現場見学会報告

今回は全地連フォーラムの見学会と共催で全国から参加者が集まるということから、テーマは「宮城県の地質」とし、ジュラ系と中新統を見学することができた。また、前日の研究発表会において見学箇所についての発表があったため、見学箇所について基礎知識を持って参加することができた。

帰りの新幹線や飛行機の時間の制約があり、タイトなスケジュールとなったため、少々ハプニングもあったが全員すべての箇所を見学できたことは非常によかった。

日 時：平成 17 年 9 月 10 日、8:00～17:00

参加者：38 名

行 程：◇仙台駅出発（8：00）

①女川原子力発電所・PR センター視察（10：00～11:10）

②石巻市鹿妻山中生層崩壊箇所視察（12：00～12:20）

③宮城県北部地震旭山丘陵久米田岩盤崩壊箇所（14：10～14:30）

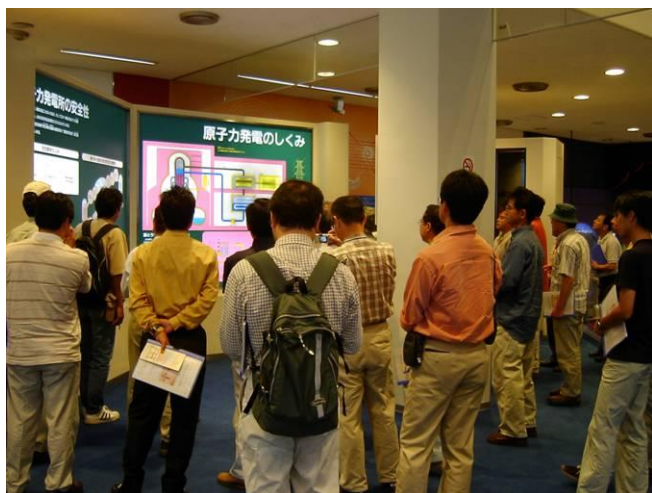
④松島湾チャーター船にて仁王島修復状況洋上視察（15：10～16:00）

◇仙台駅到着・解散（17：00）

① 女川原子力発電所・PR センター視察（案内者：東北電力（株） 橋本氏）



ガイドさんに原子炉についての説明を受けた後、橋本氏（当支部代表幹事）より地質についての説明を受けた。ジュラ紀の砂岩・頁岩の褶曲構造上に原子炉が設置されているとのことであり、岩級ごとのサンプルを見ながら討論することができ有意義であった。欲を言えば褶曲構造の露頭も見学したかった。



② 石巻市鹿妻山中生層崩壊箇所視察(案内者：(有) ジオテクノ
中里産業 中里氏)

2003. 5. 26「三陸南地震」によりアパート裏の比高 40m の崖から落石・崩壊が発生した箇所である。地質はジュラ紀の頁岩と岩床上に貫入したひん岩で、開口性節理が発達している。覆式ネットや待受擁壁を施工しているが十分とはいえない状況であった。また、擁壁のネットを突き破り駐車場に至った落石痕が残っており、落石の飛躍軌道について改めて考えさせられた。



③ 宮城県北部地震旭山丘陵久米田岩盤崩壊箇所・復旧状況視察(案内者：東北電力(株) 橋本氏)



2003. 7. 26「宮城県北部地震」により震源直上・旭山丘陵内の切土斜面において岩盤崩壊が発生した斜面である。地質は新第三紀中新世の撓曲構造を示す砂岩からなる。露頭では斜面の上部がすべり面に沿ってせり出しているのが確認できた。露頭からは上部の地層がクラッキーであることが判り、地質構造の違いや切土による影響があると感じた。

④ 松島湾チャーター船にて仁王島修復状況洋上視察(案内者：(株) 復建技術コンサルタント 名倉氏)



日本三景の一つである松島の景観保全計画に応用地質学の立場から携わった貴重な事例について、その後の保全状況を見学した。地質は中新世の凝灰角礫岩とシルト岩・砂岩互層からなる。現在の仁王島は浸食により細くなった首部をコンクリートにより覆われた状態で、ギブスを巻いた様であった。施工費を抑えたために、保護計画がいかされていないのは残念に思えた。

(文責：企画委員 村上)